

## 平成27年度予算のポイント(案)

(各計数は精査中)

## 経済対策・26年度補正予算や27年度税制改正とあわせ、経済再生と財政再建の両立を実現する予算

- **地方の創生**の観点から、「新しい日本のための優先課題推進枠」や地方財政計画における歳出枠も活用し、**魅力あふれる「まちづくり、ひとづくり、しごとづくり」を推進**。
- **「女性が輝く社会」の実現**に向け、消費税増収分を活用し、**子育て支援を充実**（国・地方：0.3兆円→0.5兆円）。あわせて**医療・介護分野の充実**（国・地方：0.2兆円→0.8兆円）も可能な限り実施し、暮らしの安心を確保（消費税増収分を活用した社会保障の充実：国・地方計1.35兆円程度）。
- 持続可能な社会保障制度の確立の観点から、**介護サービス料金（介護報酬）をメリハリをつけて引き下げ、介護保険料の上昇を抑制、利用者負担を軽減**（改定率：▲2.27%）。
- 事前防災・減災対策の充実や老朽化対策など**国土強靱化を推進**するとともに、財源を確保しつつ**東日本大震災からの復興及び福島の再生を更に加速化**。
- **外交・安全保障の立て直し**の観点から、**外交予算を充実**し、「地球儀を俯瞰する外交」を一層強力に推進。防衛についても、防衛力を着実に整備。

## 財政健全化目標の堅持

- **P B赤字GDP比半減目標の達成**を見込む。（なお、一般会計P Bも中期財政計画上の目標を達成）。
- **国債発行額（36.9兆円）は前年度から4兆円超の大幅な減額**。21年度当初予算編成以来の30兆円台。

## 地方創生

- 国の「総合戦略」等を踏まえ、「優先課題推進枠」も活用し、**0.7兆円を措置**（26年度補正予算とあわせれば1兆円超）。加えて、地域の実情に応じたきめ細かな施策を可能にする等の観点から、地方創生の取組に要する経費について、**地方財政計画の歳出に1兆円計上**（下記消費税増収分を活用した社会保障の充実とあわせれば当初予算・地方財政計画ベース（国・地方）で3兆円超）。
- （注）地方公共団体が求める新たな交付金は、26年度補正予算において先行的な仕組みを創設（1,700億円）。27年度に策定・推進される地方版「総合戦略」を踏まえ、28年度からの本格実施に向けて、その財源等も含め、検討。

## 社会保障

- 消費税増収分（1.35兆円）を活用し、**27年4月から子ども・子育て支援新制度をスタートさせ、待機児童解消加速化プランや放課後児童クラブの充実等**を推進。また、**介護職員の処遇改善**や基金による医療介護の基盤整備、**認知症対策の充実**、国民健康保険の財政対策の充実、難病対策の充実など医療・介護サービスの提供体制改革を推進。
- **介護サービス料金（介護報酬）について、介護職員の処遇改善（月+1.2万円相当）や良好なサービスに対する加算を行いつつ全体としては引下げ、介護保険料の上昇を抑制、利用者負担を軽減**（改定率：▲2.27%）。また、協会けんぽの国庫補助の見直し（国庫補助の安定化と超過準備が生じた場合の特例措置）、生活保護の適正化を行うなど、**社会保障の「自然増」を徹底して見直し**。

## 公共事業

- **公共事業関係費は前年度同水準**（5兆9,711億円（+0.0%））としつつ、自然災害に対応するための**事前防災・減災対策を充実**するとともにインフラの修繕・更新といった**老朽化対策を計画的に推進**。効率的な物流ネットワークを整備し、**国際競争力を強化**。
- **整備新幹線**について、JRからの貸付料の前倒し活用等により、**国費の増額を極力抑制しつつ、建設前倒しを決定予定**（新函館北斗～札幌間：5年、金沢～敦賀間：3年）。

## 復興

- 中間貯蔵施設建設受入れによる除染作業の加速化を踏まえて、前年度を上回る除染等の原子力災害復興関係経費を計上することなどにより、**復興特会の歳出規模として前年度並みの水準**を確保（26年度補正予算とあわせて4.2兆円）し、**被災地の復旧・復興を加速化**。（26年度補正予算において繰り入れた25年度決算剰余金等により、必要な復興財源を確保）

## 外交・防衛

- 外務 → 外務省予算について、海外での日本研究支援等を通じて**戦略的対外発信を強化**。公館新設等を通じて**外交実施体制を拡充**。
- 防衛 → 防衛関係費について、中期防に基づき必要な手当を行い、**警戒監視能力を強化**するとともに、**沿岸監視体制を整備し、島嶼部攻撃への対応も強化**（中期防対象経費：+0.8%）。また、沖縄の基地負担軽減等のための在日米軍再編事業についても、着実に推進。

## 教育・科学技術・スポーツ

- 教育 → 小中学校の教職員定数は抑制しつつ、退職教員等を活用した補習指導員など外部人材を拡充。グローバル人材の育成、国立大学改革の推進、無利子奨学金や幼稚園就園奨励費の充実等、**「教育再生」に資する施策**に重点化。
- 科学技術 → 研究開発法人を中核とした**国際的な産学官共同研究拠点（イノベーションハブ）の構築**等システム改革を推進。
- スポーツ → 2020年オリパラ大会に向け、**選手強化学業につき、毎年度の目標を設定しPDCAサイクルを強化しつつ大幅拡充**。

## 農業

- 「農林水産業・地域の活力創造プラン」に沿って、**農地中間管理機構による担い手への農地集積・集約化など農業の構造改革**を引き続き推進。併せて、**米価下落への対応**に必要な予算（収入減少影響緩和対策等）を措置。
- ジャパン・ブランドの確立を通じた農林水産物の**輸出推進**や**6次産業化**の支援など**農林水産業の成長産業化**を推進。

## 地方財政

- 地方税収増等を反映して、地方交付税交付金等は減額（16.1兆円→15.5兆円）しつつ、**地方の一般財源総額を適切に確保**。
- 地方創生の取組に要する経費について、地方財政計画の歳出に**1兆円計上**（再掲）する一方、リーマンショック後の危機対応である地方交付税の**別枠加算**を地方税収等の動向にあわせ**減額**（0.6兆円→0.2兆円）し、平時モードの対応に着実に回帰。